

平成25年度 文部科学省「全国学力・学習状況調査」結果について

文部科学省が本年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」結果が、平成25年8月27日に公表されたので、報告する。

1 趣旨

小学校第6学年及び中学校第3学年の児童・生徒を対象に、国語及び算数・数学の「習得」や「活用」力の状況を、全国との比較により把握する。

2 具体的内容

(1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日及び調査対象等

- ア 調査実施日 平成25年4月24日（水）
- イ 調査対象 小学校第6学年及び中学校第3学年の原則として全児童・生徒

(3) 4月24日に調査を実施した学校及び児童・生徒数

校種	学校	対象学校数	実施学校数（実施率）	受検児童・生徒数
小学校	墨田区立学校	25校	25校（100.0%）	1,538名
	全国公立学校	20,458校	20,418校（99.8%）	1,108,272名
	全国国立学校	76校	74校（97.4%）	7,179名
	全国私立学校	212校	98校（46.2%）	5,713名
中学校	墨田区立学校	11校	11校（100.0%）	1,267名
	全国公立学校	9,886校	9,752校（98.6%）	1,027,458名
	全国国立学校	81校	77校（95.1%）	10,218名
	全国私立学校	744校	355校（47.7%）	33,157名

(4) 調査対象教科 国語及び算数・数学で、それぞれA問題とB問題で構成されている。

<p>【A問題】：主に知識に関する問題：身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。</p> <p>【B問題】：主に活用に関する問題：知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など。</p>
--

(5) 調査内容

教科	問題	内容例
国語	A	基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。 例：漢字、ことわざ、分かったことを適切に書く、答えを抜き出す等
	B	基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。 例：リーフレットを編集する、漢字の特徴を取り上げて説明する等
算数・数学	A	基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。 例：整数、小数、分数の四則計算をする、文字式の計算をする等
	B	基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。 例：単位量当たりの大きさに着目して筋道を立てて考え、数量の関係を記述する等

3 調査結果

(1) 教科別結果一覧

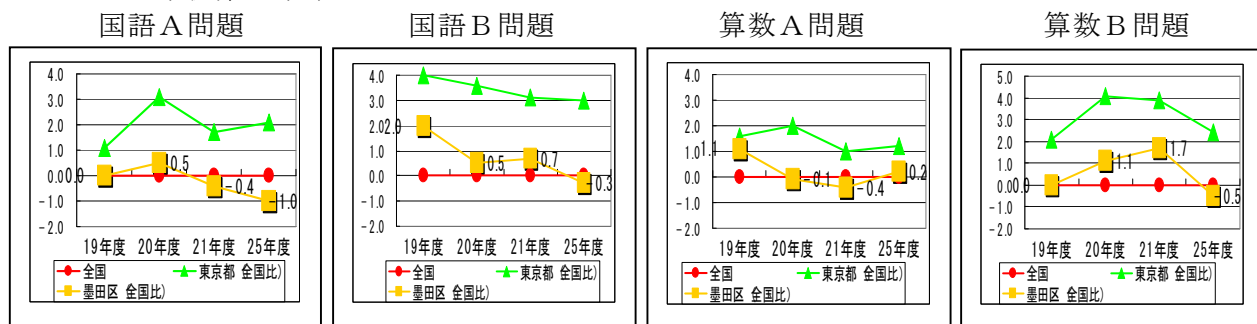
		国語		算数・数学	
		A問題	B問題	A問題	B問題
小学校 (6年生)	墨田区	61.7	49.1	77.4	57.9
	東京都	64.8	52.1	78.4	60.8
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
中学校 (3年生)	墨田区	76.1	66.8	62.5	39.2
	東京都	77.3	69.3	65.2	43.2
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5

*表中の数字は「平均正答率」(単位%)を表している。

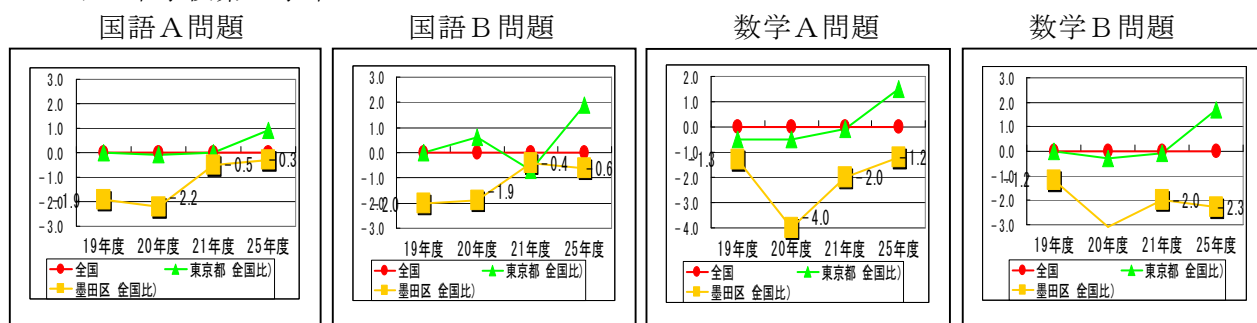
*「平均正答率」とは、それぞれ墨田区、東京都、全国の各児童・生徒の「正答率」を合計し、平均したもの。

(2) 全国平均、東京都平均と墨田区平均との経年比較

ア 小学校第6学年



イ 中学校第3学年



4 結果の分析と今後の改善策

(1) 小学校6年国語における傾向と今後の改善策

Aの4つの領域のうち、全国平均正答率よりやや下回っているのは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のみであるが、総合するとやや下回る結果となった。漢字や言葉の指導をより徹底していく必要がある。国語Bでは、自分の考えを書いたりすること等に課題がある。書くことにおける言語活動の充実が求められる。

(2) 小学校6年算数における傾向と今後の改善策

Aの4つの領域のうち、全国平均正答率よりやや下回っているのは、「図形」のみである。集中的に「図形」について指導をしていく必要がある。算数Bでは、全国や都の傾向と同様だが、「数学的な考え方」を記述式で解答する設問の無解答率が高い。自力で答えを導き出す問題解決型の授業の工夫が必要である。

(3) 中学校3年国語における傾向と今後の改善策

Aの領域「書くこと」の設問の中で、都の平均正答率より5ポイント以上下回っているものがある。国語Bでは、文章を理解した後に自分の考えを書く設問が、都と比較して5ポイント以上下回っている。論理的な文章の指導など授業改善の継続が必要である。

(4) 中学校3年数学における傾向と今後の改善策

Aの領域「図形」の設問の中で、全国及び都と比較して5ポイント以上下回っているものがある。Bでは、16問中14問で全国平均正答率よりやや下回っている。基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導など、授業改善の継続が必要である。

(5) ホームページ等を通じて区のデータ及び分析概要について公表する。また、学校ごとのデータ及び学校の取組については、ホームページ等で公表する予定である。